

(平成 25 年 10 月 22 日：第 13 回獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議資料)

私立獣医科系 5 大学大学院の教育研究改善取組概要

私立獣医科大学協会

会長 政岡俊夫

1. 私立獣医科大学協会の教育研究改善への取組

私獣協での相互評価実施：会員各大学の建学の精神ならびに教育の理念・目標に基づく獣医学教育の実践を尊重し、今日の学術研究の高度化と多様化、社会構造の変動、国際化への進展といった新たな教育研究課題に対して、会員各大学の相互協力と相互信頼、協調と競争の原理・原則に基づいて、教育研究の改善・改革に平成 12 年より取り組んでいる。

第 1 次：平成 14 年、私立獣医科大学における獣医学教育の相互評価（平成 6～12 年度）

第 2 次：平成 16 年、私立獣医科大学大学院における獣医学教育・研究の相互評価

第 3 次：平成 17 年、私立獣医科大学における獣医学教育充実に関する短期改善目標の到達度調査（平成 14・15 年度）」

第 4 次：平成 19 年、私立獣医科大学における獣医学教育の相互評価（平成 13～17 年度）

第 5 次：平成 21 年、私立獣医科大学における臨床教育および動物病院の相互評価

第 6 次：平成 23 年、私立獣医科大学における臨床ならびに衛生学実習に関する相互評価

以上、この 13 年間に計 6 回の相互評価を実施し、結果を公表してきた。

第 7 次相互評価実施：私立獣医科大学における大学院教育・研究の相互評価

近年、グローバル化や知識基盤社会が急速に進展し、学位取得者が大学・研究機関のみならず産業界をはじめ社会の様々な分野での貢献が期待されている。また、我が国の科学・産業の発展にとって大学院教育の充実が重要事項の一つとして認識され、大学院における教育課程の組織的展開の強化および国際的な通用性・信頼性の向上が強く求められている。

私獣協では、平成 16 年に実施した相互評価で明らかとなった大学院教育・研究環境等の状況からの経年変化を把握し、さらなる獣医学系大学院の教育・研究の充実と高度化を図り、自校改善と大学院生へのより良い教育環境の提供に寄与することを目的に本相互評価を実施した。

本評価では、各大学の大学院研究科の理念・目的・教育目標、教育・研究指導の内容・方法、学生の受入れ、教職員、施設設備、学生生活の支援、大学院の管理運営体制、大学院の自己点検・評価等、評価項目は広範にわたり、可能な限り多方面から現状を把握した。

なお、調査対象期間は平成 19 年度から平成 23 年度までの 5 年間である。

今回、得られた評価の概要について、第 2 次の評価と対比しつつ紹介する。

2, 大学院相互評価結果の概要

・研究科の理念・目的・教育目標等

(平成 25 年)

	酪農大	北里大	日獣大	麻布大	日本大
理念・目的・目標	有	有	有	有	有
アドミッションポリシー、 カリキュラムポリシー、 ディプロマポリシー	有	有	有	有	有
理念・目的・目標					
・学内への公表	有	有	有	有	有
・学外への公表	無	有	有	有	有
・周知・徹底されているかの検証	無	無	無	無	無
・総合的自己点検・評価	B	A	A	A	A

(A: おおむね適切である、B: 適切な部分が多い、C: 適切でない部分が多い、D: 適切でない)

(平成 16 年)

	酪農大	北里大	日獣大	麻布大	日本大
理念・目的・目標	A	A	A	A	A
基本姿勢の明示	A	A	C	C	A
人材養成の明示	A	C	C	C	A
大学の個性特徴	A	A	D	D	A
学内への公表	B	A	A	B	A
学外への公表	B	B	A	B	A
自己点検・評価	A	B	A	A	A
総合的評価	A	B	B	C	A

A: ほとんど達成されている

B: 達成されている点が多い

C: 達成されている点が少ない

D: ほとんど達成されていない

—: 評価不能

・教育・研究指導の内容・方法と条件整備

- ・教育・研究指導の内容等について (p6)
- ・教育・研究上の配慮等について (p8)
- ・中退者・単位修得後退学者 (p11)
- ・教育交流、単位交換、単位認定 (p12)
- ・授業方式、成績評価およびその改善等について (p13)
- ・臨床系専攻に於ける病院内での教育研究指導と研究への配慮について (p14)
- ・国際化について (p15)
- ・修了認定、学位授与等について (p16)
- ・修了者の進路 (p21)
- ・自己点検評価体制 (p22)

・大学院学生の受入れ(p23) H 10～H14 H 19～H23

酪農大	41人	35人
北里大	20人	20人
日獣大	29人	36人
麻布大	24人	17人
日本大	20人	40人

・教職員等

():平成16年度

教員組織		酪農大	北里大	日獣大	麻布大	日本大
11-1-1	教員組織の配置	C (B)	B (C)	A (B)	A (C)	B (A)
11-1-2	教員資格	C (A)	B (B)	A (B)	B (C)	C (A)
11-1-3	教員組織間の人的交流	C (B)	C (C)	B (C)	A (A)	A (A)
11-1-4	教員資格審査	A	B	A	A	B
11-1-5	大部門化	D (C)	C (C)	A (D)	A (D)	D (B)
11-1-6	流動研究部門-流動研究施設	C (B)	C (D)	D (D)	B (A)	D (一)
11-1-7	研究支援職員	C (D)	C (C)	D (D)	B (D)	D (B)

A: おおむね適切である、B: 適切な部分が多い、C: 適切でない部分が多い、D: 適切でない。
 ※11-1-5のみ(A: ほとんど達成されている、B: 成されている部分が多い、C: 達成されていない部分が多い、D: ほとんど達成されていない)

教育研究活動		酪農大	北里大	日獣大	麻布大	日本大
11-2-1	研究検証システム	A (D)	C (D)	A (B)	C (D)	B (B)
11-2-2	活性化システム(FD)	C (D)	B (B)	A (B)	C (D)	B (B)
11-2-3	研究時間確保(一般)	C (D)	C (B)	B (C)	D (D)	D (C)
11-2-4	研究時間確保(役職)	D	D	B	D	D
11-2-5	活性度の検証評価	B G (B D)	A E (A)	B F (C)	A E (B)	B F (B)
11-2-6	評価方法の導入	B (C)	A (B)	A (C)	C (B)	B (A)
11-2-7	資格審査への研究活動評価	A (A)	A (B)	A (B)	A (A)	B (A)

A: ほとんど確立されている、B: 確立されている部分が多い、C: 確立されていない部分が多い、D: ほとんど確立されていない、E: 有効に機能している、F: 概ね有効に機能している、G: 機能していない部分が多い、H: ほとんど機能していない。
 ※11-2-6 (A: 概ね機能している、B: 機能している部分が多い、C: 機能していない部分が多い、D: ほとんど機能していない) ※11-2-7 (A: ほとんど反映されている、B: 反映されている部分が多い、C: 反映されていない部分が多い、D: ほとんど反映されていない)

研究支援		酪農大	北里大	日獣大	麻布大	日本大
11-3-1	研究支援への人的体制	C (D)	C (C)	C (D)	D (D)	B (B)
11-3-2	教育支援への人的体制	C (D)	C (C)	C (B)	B (B)	B (B)
11-3-3	活性化の諸条件	C (B)	C (C)	B (C)	B (D)	B (B)
11-3-4	居室 ファシリティ	B (C)	C (C)	B (C)	B (D)	B (C)
11-3-5	研究費 旅費	B (B)	B (B)	C (A)	A (D)	B (A)
11-3-6	結果公表	C (B)	C (B)	A (A)	A (A)	A (A)
11-3-7	外部資金	C (B)	B (A)	A (B)	A (B)	B (B)
11-3-8	研究費の適正運用	B (B)	B (B)	A (B)	A (B)	B (A)

A: ほとんど整備されている、B: 整備されている部分が多い、C: 整備されていない部分が多い、D: ほとんど整備されていない
 ※11-3-5, 11-3-6, 11-3-8 (A: おおむね適切である、B: 適切な部分が多い、C: 適切でない部分が多い、D: 適切でない)

研究論文・研究成果の公表と情報処理について

論文の公表とデータベース化		酪農大	北里大	日獣大	麻布大	日本大
11-1	業績のデータベース化	有	有	無	有	有
11-2	情報のデータベースへの接続	有	有	無	有	有
11-3	研究成果の発信受信	C	A	C	A	A
11-4	情報の管理と発表方法	B	A	A	A	A

(A:ほとんど整備されている、B:整備されている部分が多い、C:整備されていない部分が多い、D:ほとんど整備されていない)

特許・技術移転について

特許 技術移転		酪農大	北里大	日獣大	麻布大	日本大
13-1	寄付講座 寄付研究部門	有	無	無	有	無
13-2	各種権利規定	有	有	有	有	有
13-3	技術移転など支援	有	有	有	有	有
13-4	産学連携ルール	有	有	有	有	有
13-5	工業所有権取得	A	A	D	A	B
13-6	特許収入還元ルール	A	A	A	A	A
13-7	特許の業績認定	A	B	B	A	B
13-8	TLO 整備	D	B	A	D	A
13-9	リエゾンオフィス	A	D	D	A	A

(A:ほとんど整備されている、B:整備されている部分が多い、C:整備されていない部分が多い、D:ほとんど整備されていない)

・施設設備および情報インフラ (p91)

特色ある付属研究施設・設備（総合研究所、獣医臨床・研修センター、ハイテク・リサーチ・センター、学術フロンティアセンターなど）

酪農大	有(有)	ハイテク・リサーチ・センター、その後、戦略的基盤形成プロジェクト施設・設備を運用している。
北里大	有(有)	学部と共用のハイテク・リサーチ・センター、オープン・リサーチ・センター、附属動物病院(小動物及び大動物診療センター)、附属農場がある。
日獣大	有(有)	平成20年4月1日から平成24年3月31日まで動物疾病制御研究拠点形成プロジェクトを推進し、平成25年度からは続く大型研究プロジェクトの開始を準備し多くの大学院の教育・研究施設・設備における整備状況はさらに先進の整備は必要であるが、拡充されてきている。
麻布大	有(有)	附置生物科学総合研究所、獣医臨床センター、ハイテク・リサーチ・センターにおける動物実験、RIを用いた実験、最新機器を用いた実験が出来る設備が整備されている。
日本大	有(無)	本研究科併設の生物資源科学部の家畜病院は、獣医臨床センターとして機能している。また、動物医科学センターは感染症を中心とした研究施設として機能している。 さらに、本研究科併設の生物資源科学部の総合研究所は、最新の研究機器を設えており、大学院学生の研究に利用されている。

- ・ 学生生活の支援・配慮等(p94)
- ・ 大学院の管理運営体制 (p97)
- ・ 大学院の点検・評価(p99)

(平成 25 年 10 月 22 日：第 13 回獣医学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議資料)
私立獣医科系 5 大学大学院の教育研究改善取組概要【追加資料】

修了者の進路（大学教員・研究機関の研究員等への就任状況）

	酪農大		北里大		日獣大		麻布大		日本大	
	H16	H24	H16	H24	H16	H24	H16	H24	H16	H24
修了者数 (内女子)	21 (2)	16 (7)	12 (0)	15 (4)	9 (1)	33 (9)	21 (4)	19 (3)	10 (2)	32 (13)
教育機関 (内女子)	4 (0)	5 (3)	4 (0)	6 (3)	5 (1)	10 (2)	2 (2)	4 (0)	2 (0)	6 (3)
研究機関 (内女子)	8 (0)	7 (4)	7 (0)	7 (1)	3 (0)	2 (1)	3 (0)	5 (3)	2 (1)	10 (3)
臨床 (内女子)	5 (2)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	7 (0)	1 (0)	5 (0)	4 (2)	0 (0)

H16：平成 10 年～14 年の 5 年間のデータ

H24：平成 19 年～23 年の 5 年間のデータ